



理学療法士を支える、アシックスの機能シューズ。

東京都足立区を拠点に、急性期病院からリハビリ専門病院まで地域に幅広い医療を提供するとする苑田会グループ。そのひとつである苑田第三病院は、院内に「東京脊椎脊髄病センター」を併設し、手術からリハビリまで一貫して行っています。今回はアシックスのシューズをご採用いただいているご縁から、理学療法士の古谷さんと内藤さんにお話を伺いました。



「サービス向上委員会」が発足し、シューズを統一。

今回初めて、アシックスのシューズをご採用いただいたと伺っています。ご採用の経緯について、教えてくださいませんか？

古谷さん 苑田会グループ全体で、マナーや身だしなみを見直す「サービス向上委員会」が発足しました。その流れで、これまでバラバラだった理学療法士のシューズもきちんと統一することになり、今回の採用に至りました。何種類かの中で検討し、履き心地や動きやすさの点でアシックスに決まりました。

実際に履いてみられたご感想は、いかがですか？

内藤さん 以前履いていたものと比べて、疲れにくくなりました。通気性も良く、履いていて快適です。一日で最も長く履くものなので、足にやさしいところが気に入っています。

古谷さん かかところが少し浅いので、脱ぎ履きが非常にスムーズです。理学療法士は患者様のベッドの上で施術するため、靴を脱ぐ機会が多くあります。これはしっかりフィットして歩きやすいのに、手を問わず脱ぎ履きできるのが良いですね。

脱ぎ履きが多いというのは、理学療法士さんならではのですね。

古谷さん そうですね。ただ、脱ぎ履きだけならサンダルが便利なので、以前は履いているスタッフもいました。しかし、サンダルでは災害などが起きた際に迅速に対応できないため、患者様の安全を守るためにも、今回から全員シューズに統一しています。

内藤さん 患者様をご覧になったときに汚れていたり、かかとを踏んでいたりが良くないというのも、シューズを選び直した理由のひとつです。これは黒なので汚れも目立ちにくいですし、脱ぎ履きしやすいのでかかとを踏むこともありません。



最新の治療を提供するため、知識も技術もアップデート。

「サービス向上委員会」の設置など、患者様ととても大切にしておられる印象ですが、患者様と接する際に気を付けておられることはありますか？

内藤さん 私は、患者様のお話をしっかり傾聴することを心がけています。物理的に痛みを取り除くだけでなく、不安や悩みも和らげることができたら……と思っています。リハビリは一人の患者様を長く担当することも多いので、信頼していただき、心と体の両方に寄り添うのが理想です。

古谷さん 病院の理念として「確かな技術と優れた設備で高度な医療を提供し、顔の見える診療を心がけ、地域医療の要となるよう職員一同努力します」を掲げていることもあり、海外の論文をチェックするなど、常に技術や知識をアップデートするようにしています。

「腰痛ならぜひこの病院で」と遠方から来られる患者様も多いと伺いました。

古谷さん 脊椎脊髄の治療に特化した病院は、全国でもあまりないと思います。星野雅洋センター長を中心に、腰痛、坐骨神経痛、頸椎椎間板ヘルニアなどに対する低侵襲手術を多数行っています。術後のリハビリを担当するに当たり、理学療法士の中でも認定理学療法士と呼ばれる、さらに専門性の高い資格を取得することを推奨しています。

認定理学療法士とは、どのようなものなのでしょうか？

古谷さん 特定分野の専門性を有していることを認定された、理学療法士のことです。グループ全体で資格取得に取り組んでおり、勉強会なども行っています。

内藤さん 循環器や疼痛管理など7分野ありますが、1人で2～3分野の資格を取得している者もいます。

研究や教育にも、非常に力を入れておられるのですね。

古谷さん 患者様には、根拠のある治療をしたいと考えています。そのため、日々の研究が欠かせません。医療の分野も日々進歩していますから、臨床の現場だけでなく、研究活動が重要です。そのため論文の執筆や、海外の学会などにも参加しています。またインターンシップの受け入れも行っており、新たな医療の担い手を育てていくこともこれからの使命ですね。

患者様の心と体をサポートする理学療法士の皆様の足もとを、しっかり支えているアシックスのシューズ。脱ぎ履きのしやすさなど、今回お伺いしたご意見も参考に、皆様のお役に立てるものづくりを目指し続けます。